

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(触診)

当施設リハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

1. 解剖・運動学の知識の補充、触診技術の向上
2. 治療技術の向上(臨床に活かせる技術の取得)

●構造 structure

【人数、配置】

触診コアグループ:PT2名 OT2名 ST1名

リーダー 高野(PT/入所)
川上(PT/入所)
辻(OT/入所)
佐伯(OT/デイ)
田原(ST/入所)

【量】

月2回:計17回

※今年度はコロナ・ノロ等感染予防対策のため8月・2月は非実施

【物品】 骨模型、プラットフォーム、クッション、スタンダード車椅子、ゴニオメーター

参考文献:基礎運動学、筋骨格系のキネシオロジー、動作分析、整形外科運動療法ナビゲーション等

●過程 process

5月:年間目標の設定①触診コアを通して基礎的な解剖・運動学の知識の補充と触診技術の向上を図る
②実技を通して基本的な触診技術を身につけ、実際の臨床に活かされるようになる

6月:肩関節の触診(佐伯OT・井川PT)、知識の補充

7月:体幹の触診(辻OT・高野PT)、知識の補充

8月:コロナ感染予防対策のため非実施

9月:重介助者の移乗方法・ベッド上での引き上げ介助方法の練習

10月:移乗介助・歩行介助練習

11月:股関節の筋の触診、運動・解剖学の復習

12月:股関節の触診、関節の動かし方

1月:股関節の治療、勉強会に向けての話し合い

2月:座位の姿勢評価・治療、コアカリキュラム研修会発表(座位姿勢の評価と治療)

3月:腰痛に対する評価方法やリスク管理、年間業績発表

●結果 outcome

- ・アウトプットや座学を通して知識の補充が行えた
- ・各関節の構造や筋の走行を理解した上での動かし方を学び、臨床に活かした
- ・持ち方や触り方、骨指標の触診等の技術が向上し、利用者様に還元できた
- ・研修会を通して色々な先輩方の評価方法や治療技術を学ぶ機会を得て、視野が広がるきっかけになった
- ・臨床で困っている事を練習することで、実際の場面で困ることが減った

《次年度持ち越し課題》

- ・各関節の細かい解剖・運動学の知識の補充(筋や骨指標がメインであった為、靭帯や関節包等)
- ・触診、移乗、起居技術のさらなる向上、腰痛予防